

よみがえれ！帯解駅

大正 15 年のレトロな駅舎に復元整備しよう！

令和4年に「登録有形文化財」に登録された帯解駅舎の保存改修について基本設計が進行しています。しかしながら、その復元時期について「昭和 40 年代」を主張する奈良市と、以前から「大正 15 年の大改築時」を主張してきた本会との間で意見が分かれ、現在、調整中です。



本会が大正 15 年を目指す理由は、以下のように考えます。

- ①昭和 28 年に当時の若い有志からなる「帯解郷土研究会」が熱心に調査して編纂した『帯解郷土誌』に大正 15 年の大改築について詳細に記載されていることから、先人の記録を目に見える形で未来に引き継ぐことは意義深い。
- ②「登録有形文化財」として、文化財価値がより高まることによって帯解地域を訪れる人が増え、地域の活性化に寄与する。

今後、奈良市・JR 西日本等と丁寧に話し合い、耐震補強への対応、過去の改築・改修時の調査などを踏まえて、後世に憂いを残さない保存改修が実現するように努力したいと思います。

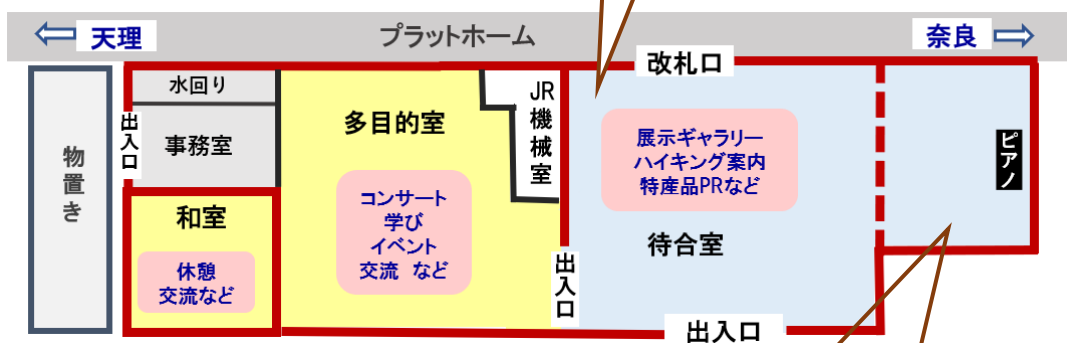
本会が目指す復元整備案



現在の券売機周辺



参考イメージ：因幡線美作滝尾駅



昭和 34 年の帯解駅 廣瀬政彦氏撮影

外観

- ・現在アルミサッシの窓は木製窓に
- ・窓の上の欄間部も木枠の窓に
- ・腰壁は杉板を縦貼りに
- ・南側にも「^{ひし}庇」をつける

円照寺との繋がりから特別の待合室と呼ばれていた部分

観音開きの扉をつけ、清楚で気品ある空間に

帯解駅舎の歴史

- * 帯解駅舎は明治 31 年の建設後、大正 15 年に大改築が行われた後は昭和 30 年代半ばまで改築されていないようです。
- * 大正 15 年の大改築においては鉄道院通達『小停車場本屋標準図』(大正 7 年)を参考にしたと考えられます。
- * 券売機背後の間仕切の改修工事は昭和 40 年代かと思われます。
- ★2021 年 7 月 JR 西日本から奈良市に無償譲渡されています。